

みずほマーケット・トピック(2021 年 4 月 30 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

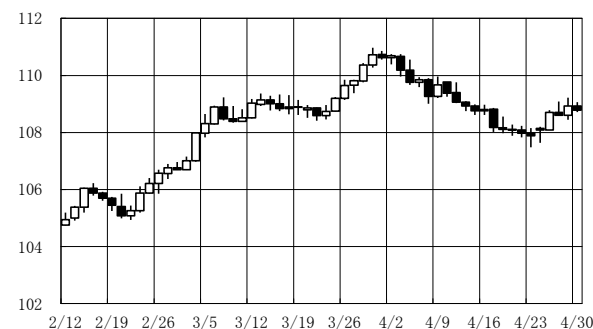
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は上昇し、一時 109 円を回復する展開となった。週初 26 日、107 円台後半でオープンしたドル/円は、欧州の経済回復への期待からユーロ/ドルが上昇する中、ドル売りの動きが強まって、一時週安値の 107.65 円まで値を下げた。その後は米株先物の堅調推移を受けて、円売りが優勢となり 108 円に乗せたが終盤は方向感のない推移となった。27 日は、日銀金融政策決定会合において、黒田総裁が 23 年までに物価上昇率 2%の目標に届かないと発言したことを受けて円売り優勢の展開となった。米国時間では堅調な経済指標の結果や米金利上昇の影響を受けてドル高が進み、108 円台後半まで続伸した。28 日は、前日の流れを受けてドル/円は 109 円を上抜ける動きに。米国時間の FOMC は、インフレ率の上昇が一時的であることに加え、金融緩和の長期化が示唆される内容であったことから、米金利が急落し、ドル売りが強まり 108 円台半ばまで値を下げた。29 日は、東京祝日の中、前半は小幅な値動きであったが、後半は、前日から米金利が反発したほか米株先物が買われて、一時週高値の 109.22 円まで上昇した。本日のドル/円は 109 円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドル相場は 1.21 台まで続伸する展開。週初 26 日、1.20 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、ユーロ圏の経済成長への期待感からユーロの選好が進み、1.21 台前半まで値を上げた。買い一巡後は利益確定の動きもあり 1.20 台半ばまで反落したが、米金利が軟調な動きを示す地合いの中、小幅に値を戻す動きがみられた。しかし、27 日は前日から米金利が反発したことで、一転して上値の重い値動きに。翌日に FOMC を控える中、取引も閑散となり、ユーロ/ドルは方向感なく推移した。28 日は、FOMC を控える中、一時膠着する局面も見られたが、FOMC 後は金融緩和の長期化を示唆する内容にドル売りの動きが強まって、1.21 台を回復した。29 日には、前日の流れを受けて、ユーロ/ドルは一時週高値の 1.2150 をつけ約 2 か月ぶりの高値をつけた。買い一巡後も、ユーロの選好は続き、底堅い値動きが続いた。本日のユーロ/ドルは、1.20 台前半で取引されている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		4/23(Fri)	4/26(Mon)	4/27(Tue)	4/28(Wed)	4/29(Thu)
ドル/円	東京9:00	107.99	107.88	108.20	108.75	108.51
	High	108.14	108.19	108.77	109.08	109.22
	Low	107.48	107.65	108.09	108.58	108.44
	NY 17:00	107.86	108.10	108.73	108.60	108.92
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2017	1.2090	1.2079	1.2087	1.2135
	High	1.2100	1.2117	1.2093	1.2134	1.2150
	Low	1.2013	1.2061	1.2058	1.2056	1.2103
	NY 17:00	1.2097	1.2087	1.2093	1.2125	1.2122
ユーロ/円	東京9:00	129.67	130.44	130.64	131.50	131.68
	High	130.54	130.76	131.51	131.81	132.35
	Low	129.61	130.22	130.57	131.40	131.63
	NY 17:00	130.54	130.63	131.49	131.70	132.06
日経平均株価		29,020.63	29,126.23	28,991.89	29,053.97	-
TOPIX		1,914.98	1,918.15	1,903.55	1,909.06	-
NYダウ工業株30種平均		34,043.49	33,981.57	33,984.93	33,820.38	34,060.36
NASDAQ		14,016.81	14,138.78	14,090.22	14,051.03	14,082.55
日本10年債		0.06%	0.07%	0.08%	0.09%	-
米国10年債		1.56%	1.57%	1.62%	1.61%	1.64%
原油価格(WTI)		62.14	61.91	62.94	63.86	65.01
金(NY)		1,777.80	1,780.10	1,778.80	1,773.90	1,768.30

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、3日(月)に4月ISM製造業景気指数、5日(水)にISM非製造業景気指数が公表される。前回3月の結果はそれぞれ64.7、63.7となった。製造業は3月と比較して3.9ポイント上昇し、1983年以来の水準にまで到達した。内訳をみると新規受注指数が68.0を記録したことをはじめ、雇用は5.2ポイント伸びて59.6となるなど多くの項目で上昇が確認された。ワクチン接種の加速に伴う国内の景況感の改善が数字に現れた格好となった一方で、輸出受注指数は▲2.7ポイント悪化し54.5となっており、外需の先行き不透明感が示唆される結果となった。非製造業は8.4ポイントと大幅な伸びとなり、1997年の統計開始以降で最高を記録した。各構成項目のほとんどにおいて製造業より顕著な改善が見られた。このような結果は3月雇用統計や4月中旬に発表された地区連銀経済報告(ページブック)の内容と整合的であり、国内景気の先行きに関して楽観的な見方も強まりつつあることから、引き続き堅調な結果が期待される。なお、ブルームバーグの予想では、4月の結果をそれぞれ65.1、64.1としている。その他、7日(金)に4月雇用統計の結果が公表される。
- 欧州では本日30日(金)にユーロ圏1～3月期GDP(速報)が発表される。10～12月期のGDP(季節調整値、以下同様)は前期比▲0.7%となった。7～9月期は統計が開始された1995年以来最大の上昇幅を記録したが、域内での変異株の拡大によって再度マイナスに転落した。4～6月期と比較して業種を絞ったロックダウンに踏み切った結果、製造業への打撃は限定的なものとなったが、非製造業の低迷により個人消費が同▲2.8%と落ち込んだ。年間では、前年比▲6.6%となり統計開始以来で最悪の結果となった。1～3月期にかけても、ワクチン接種が段階的に進捗したものの、ドイツをはじめとする主要国でロックダウン措置が延長された経緯を踏まえてマイナス成長が続くと見込まれる。なお、ブルームバーグの事前予想では1～3月期の結果を前年比▲0.8%と予想している。この他、本日30日(金)には3月ユーロ圏失業率、6日(木)には英国で金融政策会合が開催予定である。

	本 邦	海 外
4月30日(金)	・3月鉱工業生産(速報) ・3月失業率/有効求人倍率	・米4月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米3月コアPCEデフレーター ・ユーロ圏1～3月期GDP(速報) ・ユーロ圏3月失業率
5月3日(月)	—————	・米4月ISM製造業景気指数 ・ユーロ圏4月製造業PMI(確報)
4日(火)	—————	・米3月貿易収支 ・米3月製造業受注
5日(水)	—————	・米4月ISM非製造業景気指数 ・ユーロ圏4月非製造業PMI(確報)
6日(木)	・日銀金融政策決定会合議事要旨(4月会合分) ・4月自動車販売台数	・英 金融政策会合
7日(金)	—————	・米4月雇用統計

【当面の主要行事日程(2021年5月～)】

ECB 政策理事会 (6月10日、7月22日、9月9日)

FOMC (6月15～16日、7月27～28日、9月21～22日)

日銀金融政策決定会合 (6月17～18日、7月15～16日、9月21～22日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？
2021年4月26日	年後半に警戒したい金融市場の「成長痛」
2021年4月23日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月、テーバリングと曲解されるリスクを警戒～)
2021年4月21日	ユーロ圏銀行貸出態度調査～与信環境の厳しさは継続～
2021年4月20日	調整色が強まってもワクチン相場の核心は変わらず
2021年4月19日	為替政策報告の読みから～イエレン長官の思惑は～
2021年4月16日	週末版(長きにわたる正常化プロセスの始まりか～まずはパウエルショックの回避が至上命題～)
2021年4月14日	多様化が進む世界の外貨準備～ドル離れが顕著に～
2021年4月13日	ユーロ相場の展望～盤石の需給が支えに～
2021年4月12日	近年の「年間値幅」をこなしたドル/円相場の今後
2021年4月9日	週末版(GFSRも懸念する世界経済の「成長痛」～中長期的に拡がる「金利の無い世界」のフロンティア～)
2021年4月7日	IMF世界経済見通しが示す新興国の憂鬱
2021年4月6日	暗雲垂れ込めるアフターメルケルのドイツ政治
2021年4月5日	米3月雇用統計の読み方～長期失業者割合は上昇～
2021年4月2日	週末版(欧州で台頭するワクチン・ナショナリズム～EU 離脱を象徴するワクチン戦争～)
2021年4月1日	ラガルドECB総裁、「挑発」の真意はどこに？
2021年3月29日	リスクシナリオの点検～上下のリスクを検討する～
2021年3月26日	週末版(現状を理解するための3つのテーマ「金利」「コロナ抑制状況」「原油」～「需給」は小休止～)
2021年3月25日	ドイツ州議会選挙に見る「移民から環境へ」のシフト
2021年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年2月分)
2021年3月19日	週末版(「実質金利ゼロ」が次の節目？～ハイライトは4～6月期か？～)
2021年3月18日	FOMCレビュー～現状維持に見る強気の足音～
2021年3月16日	FOMCレビュー～ドットチャート&議長会見～
2021年3月15日	期待の米国、不安の日本～コロナ対応の明暗～
2021年3月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～significantly higher paceの解釈～)
2021年3月11日	ECB政策理事会プレビュー～PEPPの加速を示唆へ～
2021年3月9日	年初来の為替市場から見える「今年のテーマ」
2021年3月8日	好調な米2月雇用統計にも見逃せない危うさ
2021年3月5日	週末版
2021年3月4日	英ポンド急騰の背景～経済対策、ワクチン、成長率～
2021年3月3日	米金利に連れたユーロ圏金利～ECBIは容認できず～
2021年3月2日	「鏡に映った自分」に惑うFRB～前提が変わった2か月間～
2021年2月26日	週末版(米10年金利の1.60%台到達を受けて～パウエルショック～)
2021年2月25日	マネーサプライを見てインフレ語れず～パウエル公聴会～
2021年2月22日	「民間部門の貯蓄過剰」は今後の「マグマ」なのか？
2021年2月19日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明記された「ユーロ高反転」～)
2021年2月18日	動き始めた米実質金利への懸念～10年1.3%到達を受けて～
2021年2月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年1月分)
2021年2月15日	アフターコロナを予感させる米国のインフレ論争
2021年2月12日	ドラギ新首相誕生について～「挙国一致」と「寄せ集め」の狭間～
2021年2月9日	週末版(下がらない実質金利とイーランドスプレッドの現状～やはり気になる「米10年金利1.5%」という節目～)
2021年2月9日	円相場の需給環境～貿易均衡という新常态～
2021年2月8日	試される「双循環」～人民元の上昇は容認されるか～
2021年2月5日	週末版(なぜユーロ圏消費者物価指数(HICP)は急騰したのか？～一過性のまやかかし～)
2021年2月4日	最悪の落ち込みとなった2020年のユーロ圏経済
2021年2月2日	イスラエルリスクをどう考えるか～世界の実験室～
2021年1月29日	週末版(マイナス金利深掘りを示唆し始めたECB～その理由はどこに？～)
2021年1月27日	米10年金利はどこまで上がりそうか？
2021年1月25日	最悪となった2020年のユーロ圏物価情勢
2021年1月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「次の一手」はYCC？～)
2021年1月20日	「強いドル」とは言わなかったイエレン新財務長官
2021年1月19日	直接投資減少で緩むドル/円相場の「地盤」
2021年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年12月分)
2021年1月18日	金融市場はバイデン新政権をどう見ているのか？
2021年1月15日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ラガルド流が試されるのは昨年よりも今年～)
2021年1月13日	実質金利の上昇はどこまで容認されそうか？
2021年1月12日	米12月雇用統計の読み方～ヘッドラインに引きずられず～
2021年1月8日	週末版(早速乱れ始めたFRBのフォワードガイダンス～いつも通りの済し崩し～)
2021年1月7日	緊急事態宣言の再発出で強まる貯蓄という正義
2021年1月5日	遂に2%に到達した米国のインフレ期待
2021年1月4日	低金利が招く格差拡大・為替の静寂・株の喧騒
2020年12月28日	英EU「新たな関係」合意を巡るQ&A
2020年12月25日	週末版
2020年12月24日	やっぱり狭かったドル/円の値幅～3つの背景～
2020年12月23日	期待指数に薄日も差し込んできた米消費者マインド
2020年12月21日	2021年も続く「金融市場と実体経済の乖離」
2020年12月18日	週末版(為替政策報告書を受けて～垣間見える「まだ、ドル高」の本音～)
2020年12月17日	FOMCを終えて～約束された「金利差なき世界」～
2020年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年11月分)
2020年12月15日	イエレンダッシュボードで見る米雇用の現状
2020年12月14日	ドル安の裏側には何があるのか？～元、ユーロの存在～
2020年12月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「中途半端」でユーロ高抑制できず～)
2020年12月10日	「イエレン次期財務長官と為替」というテーマ
2020年12月8日	前門のプレグジット、後門の次年度予算
2020年12月7日	米労働市場の抱える怖さ～長期失業者の増加～
2020年12月4日	週末版(FRBが直面するインフレ期待上昇～2021年の政策運営に影響必至か？～)
2020年12月2日	過去に類例のない物価低迷に直面するユーロ圏
2020年12月1日	実質金利とドル/円相場にまつわる議論について
2020年11月27日	週末版(緩和の「收穫通減」に触れたECB～やればやるほど意味が薄れるリスク～)
2020年11月25日	拡大し続ける実体経済と金融市場の距離感
2020年11月24日	ECBの振りかざす「2段階アプローチ」とは
2020年11月20日	週末版(「円高ではなくドル安」という葛藤～日本の政治・経済にとってのリスク～)
2020年11月18日	側近退場後のジョンソン政権とプレグジット交渉の行方
2020年11月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年10月分)
2020年11月17日	日米欧三極の成長率～急落と急騰の先にあるもの～
2020年11月16日	ワクチン報道はゲームチェンジャーになったのか？
2020年11月13日	週末版
2020年11月12日	結局、解消されていないユーロ高～「量」の無力～
2020年11月11日	円高・ドル安予想を修正する必要があるのか？